



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 中外鉱業株式会社

上場取引所 東

コード番号 1491 URL <http://www.chugaikogyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 芳賀 一利

問合せ先責任者 (役職名) IR センター室長 (氏名) 桜庭 勲

TEL 03-3201-1541

四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	39,904	4.7	△292	—	△346	—	△18	—
29年3月期第3四半期	38,095	76.0	274	—	227	—	17	—

(注)包括利益 30年3月期第3四半期 △368百万円 (—%) 29年3月期第3四半期 217百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	△0.06	—
29年3月期第3四半期	0.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	7,514	6,217	87.3	22.64
29年3月期	7,585	6,585	86.7	22.70

(参考)自己資本 30年3月期第3四半期 6,557百万円 29年3月期 6,575百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,500	△12.8	△190	—	△250	—	30	—	0.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	289,747,982 株	29年3月期	289,747,982 株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	97,499 株	29年3月期	96,267 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	289,651,113 株	29年3月期3Q	289,652,571 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料の記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や堅調な企業業績に支えられ、景気は回復基調が続いているものの、不安定な海外政治情勢や朝鮮半島を始めとする地政学リスクの高まり等、依然として不透明な状況が続いております。

このような経済状況のもと、当社グループ(当社及び連結子会社)は、貴金属市況において、金価格は、米国の政情不安や地政学リスクの高まりから安全資産としての需要が拡大し、総じて上昇基調で推移いたしました。業績につきましては、売上高は、金地金の取引高が当初見込より下回ったものの、コスト削減や生産性の合理化等の採算性の見直しを行ったことから、前年同四半期に比べ増益となりました。不動産市況においては、低金利の継続や政府の景気浮揚策等もあり、不動産価格の上昇が続いております。ビル賃貸業においては、都心の優良オフィスビルでは企業の拡張移転、増床などのオフィスの拡張等により空室率は低水準で推移し、成約賃料においても緩やかな上昇が続いております。こうした中、平成29年5月に販売用不動産(信託受益権)を売却したことが寄与し業績は好調に推移いたしました。機械市況においては、欧米が総じて好調な他、スマートフォン特需等による中国市場の回復により外需は好調に推移し、内需は政府の補助金の効果や自動車や半導体関連の需要が好調であったことから工作機械受注は堅調に推移いたしました。収益改善に向け在庫の適正化を行った結果、業績は低調に推移いたしました。コンテンツ事業においては、全国の小売店やネット通販・自社運営ECサイトにて自社商品を販売の他、各種物販イベントに多数出展しております。また、アニメ製作委員会や番組スポンサーへ積極的に参加し、市場のニーズに合った商品の企画・製作・販売を展開してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は39,904,335千円(前年同四半期38,095,099千円)、営業損益は292,189千円の損失(前年同四半期274,334千円の利益)、経常損益は346,159千円の損失(前年同四半期227,527千円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損益は18,129千円の損失(前年同四半期17,325千円の利益)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

貴金属事業におきましては、売上高は38,147,852千円(前年同四半期36,071,457千円)、営業損益は153,548千円の利益(前年同四半期59,934千円の利益)となりました。

不動産事業におきましては、売上高は1,229,267千円(前年同四半期748,563千円)、営業損益は593,128千円の利益(前年同四半期153,853千円の利益)となりました。

機械事業におきましては、売上高は951,358千円(前年同四半期733,050千円)、営業損益は44,086千円の損失(前年同四半期63,116千円の損失)となりました。

投資事業におきましては、営業損益は733,498千円の損失(前年同四半期387,510千円の利益)となりました。

コンテンツ事業におきましては、売上高は291,830千円(前年同四半期138,567千円)、営業損益は25,986千円の利益(前年同四半期10,344千円の利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末における総資産の残高は、前連結会計年度末より71,235千円減少し、当第3四半期末は、7,514,127千円となりました。

増加の主なものは現金及び預金の増加(1,362,928千円から1,804,911千円へ441,982千円の増加)であります。

減少の主なものは、販売用不動産の減少(505,358千円から85,613千円へ419,744千円の減少)であります。

当第3四半期末における負債の残高は、前連結会計年度末より296,824千円増加し、当第3四半期末は、1,296,443千円となりました。

増加の主なものは、短期借入金の増加(150,000千円から300,000千円へ150,000千円の増加)、デリバティブ債務の増加(184,769千円の増加)であります。

減少の主なものは、長期借入金の減少(249,300千円から144,540千円へ104,760千円の減少)であります。

当第3四半期末における純資産の残高は、前連結会計年度末より368,060千円減少し、当第3四半期末は、6,217,683千円となりました。

減少の主なものは、非支配株主持分の減少(9,958千円から△339,934千円へ349,892千円の減少)であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期業績予想につきましては、今後の貴金属価格の動向により業績は大きく影響を受けるため、連結業績予想の修正は行っておりません。確定次第速やかに公表します。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,362,928	1,804,911
売掛金	107,737	131,993
商品及び製品	909,317	937,945
仕掛品	203,889	194,258
原材料及び貯蔵品	3,688	13,135
販売用不動産	505,358	85,613
預け金	1,726,219	1,637,154
その他	32,700	38,740
流動資産合計	4,851,840	4,843,753
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,272,568	1,271,880
減価償却累計額	△586,359	△639,836
建物及び構築物(純額)	686,209	632,044
機械装置及び運搬具	534,898	523,361
減価償却累計額	△440,964	△440,610
機械装置及び運搬具(純額)	93,933	82,751
土地	1,691,391	1,691,391
その他	112,524	113,535
減価償却累計額	△102,914	△103,535
その他(純額)	9,610	9,999
有形固定資産合計	2,481,144	2,416,186
無形固定資産		
コンテンツ資産	—	11,106
その他	7,600	6,325
無形固定資産合計	7,600	17,431
投資その他の資産		
投資有価証券	101,946	101,946
出資金	9,205	9,205
長期未収入金	487,019	487,019
敷金及び保証金	124,682	116,365
その他	8,943	9,237
貸倒引当金	△487,019	△487,019
投資その他の資産合計	244,777	236,755
固定資産合計	2,733,522	2,670,373
資産合計	7,585,363	7,514,127

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	38,227	101,036
短期借入金	150,000	300,000
関係会社短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	139,680	151,320
未払金	26,343	28,591
未払法人税等	26,666	39,023
デリバティブ債務	—	184,769
その他	73,751	61,331
流動負債合計	504,669	916,071
固定負債		
長期借入金	249,300	144,540
長期末払金	12,332	6,885
金属鋁業等鋁害防止引当金	3,953	3,953
預り敷金保証金	17,798	13,382
繰延税金負債	17,598	14,346
資産除去債務	193,968	197,264
固定負債合計	494,950	380,371
負債合計	999,619	1,296,443
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,248,926	6,248,926
利益剰余金	358,040	339,911
自己株式	△31,182	△31,219
株主資本合計	6,575,785	6,557,617
非支配株主持分	9,958	△339,934
純資産合計	6,585,743	6,217,683
負債純資産合計	7,585,363	7,514,127

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	38,095,099	39,904,335
売上原価	36,841,044	39,205,006
売上総利益	1,254,054	699,328
販売費及び一般管理費	979,720	991,518
営業利益又は営業損失(△)	274,334	△292,189
営業外収益		
受取利息	17	20
国庫補助金収入	10,283	10,057
保険金収入	985	737
その他	11,090	2,182
営業外収益合計	22,377	12,997
営業外費用		
支払利息	6,331	5,703
休山管理費	58,248	56,022
その他	4,603	5,240
営業外費用合計	69,184	66,967
経常利益又は経常損失(△)	227,527	△346,159
特別利益		
固定資産売却益	259	565
特別利益合計	259	565
特別損失		
固定資産除却損	55	2,673
特別損失合計	55	2,673
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	227,731	△348,268
法人税、住民税及び事業税	12,823	23,006
法人税等調整額	△2,120	△3,252
法人税等合計	10,703	19,754
四半期純利益又は四半期純損失(△)	217,027	△368,022
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	199,702	△349,892
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	17,325	△18,129

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	217,027	△368,022
四半期包括利益	217,027	△368,022
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,325	△18,129
非支配株主に係る四半期包括利益	199,702	△349,892

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結会計期間より、JACK DIAMOND Co., Ltd. を連結範囲に含めております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	投資事業	コンテンツ 事業		
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	36,071,457	736,540	733,050	408,823	138,567	6,659	38,095,099
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	12,022	—	—	—	—	12,022
計	36,071,457	748,563	733,050	408,823	138,567	6,659	38,107,122
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	59,934	153,853	△63,116	387,510	10,344	6,659	555,185

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
(1) 外部顧客への 売上高	—	38,095,099
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	△12,022	—
計	△12,022	38,095,099
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	△280,851	274,334

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電による売電事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△280,851千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△280,851千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	投資事業	コンテンツ 事業		
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	38,147,852	1,217,245	951,358	△710,974	291,830	7,023	39,904,335
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	12,022	—	—	—	—	12,022
計	38,147,852	1,229,267	951,358	△710,974	291,830	7,023	39,916,358
セグメント利益又は セグメント損失(△)	153,548	593,128	△44,086	△733,498	25,986	7,023	2,100

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
(1) 外部顧客への 売上高	—	39,904,335
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	△12,022	—
計	△12,022	39,904,335
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△294,290	△292,189

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電による売電事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△294,290千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△294,290千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、従来の報告セグメントである「貴金属事業」と「宝飾事業」の区分を統合して、「貴金属事業」セグメントに区分しております。これは、営業強化を図るため事業部の再編を行い貴金属部と宝飾部の統合したことによるものです。

また、「その他」に含まれていた「コンテンツ事業」について、事業規模が拡大し、経営における重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。